

氏名/所属/職名 細川雅也 / 食物栄養学科 / 教授

専門分野			
内科系臨床医学、生活科学、境界医学			
研究課題			
代謝学、食生活学、病態検査学			
教育活動			
担当授業科目(学部)			
解剖生理学Ⅰ、病理学Ⅰ、病理学Ⅱ、解剖生理学実験、救急処置、演習A、演習B、卒業研究			
担当授業科目(大学院)			
臨床栄養学特論、臨床栄養学演習、病態医学特論			
事項	年月	対象者	概要
教育方法の実践例			
帝塚山学院大学大学院人間科学研究科 人間科学専攻「臨床栄養学特論」	平成22年4月～ 現在に至る	本学大学院生	幅広い領域の疾患における病態栄養について解説し、個々の栄養治療について理解を深めるために適宜、図表やDVD、教科書、参考書、配布資料を活用しながら講義を行い、一人ひとりの学生に質問を投げかけ、双方向性の問題解決型の授業を行うよう工夫している。
帝塚山学院大学大学院人間科学研究科 人間科学専攻「病態医学特論」	平成22年4月～ 現在に至る	本学大学院生	近年、長足の進歩を遂げている病態医学の各領域、すなわち代謝栄養学、内分泌学、整形外科、産婦人科学、神経学、血液学、消化器病学、循環器病学、腎臓病学などにおける最先端の治療法についてその分子生物学的な基盤とともに解説している。
帝塚山学院大学人間科学部食物栄養学科 「病理学Ⅱ」	平成22年4月～ 現在に至る	本学2、3、4年生	臨床の現場において管理栄養士が医師、薬剤師、看護師、検査技師など他の職種とともにチーム医療を行う際に必要とされる医学の知識について、病態生理を中心にして講義している。学生の理解を助け、知識の定着を図るために図表を活用し、学生にわかりやすい授業を心がけている。
帝塚山学院大学人間科学部食物栄養学科 「病理学Ⅰ」	平成22年4月～ 現在に至る	本学1、2、3、4年生	「疾病・疾患の原因とその本態を理解する」ことを目標とし、主要疾患の成因、病態、診断、治療等を理解するために、生活習慣病、栄養疾患、代謝疾患、消化器疾患、感染症、免疫・アレルギー疾患、腎疾患等の成因や概要を講義している。そして、これらの疾患の発症や進行について述べ、病態の評価の仕方、診断や治療について概説している。
帝塚山学院大学人間科学部食物栄養学科「解剖生理学Ⅰ」	平成22年4月～ 現在に至る	学部学生	ヒトの身体の構造と機能を各器官ごとに「細胞レベル」においても「組織レベル」においても解説した。諸臓器・諸器官の機能について理解し、臓器・器官相互の調節機構について理解が深められるようにDVDを活用している。
帝塚山学院大学人間科学部食物栄養学科「解剖生理学実験」	平成22年4月～ 現在に至る	本学1、2、3、4年生	人体の構造と機能について理解を深めるため、人体または人体模型による主要臓器について観察実習(組織実習を含む)を実施している。生理学実習としてヒトの生命活動を維持するた

			めに必要な生理機能を実験および実習を通して学びを深めている。
作成した教材・資料集			
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療 医歯薬出版	平成 28 年 2 月	病理学Ⅱ履修者 2、3、4年生	分担執筆 p77-92,肥満・ メタボリックシンドローム・糖尿病 について、その成因・病態・ 診断・治療をわかりやすく概説した。
臨床病態栄養学 文光堂	平成 25 年 9 月	臨床栄養学特論履修者 大学院生	分担執筆 p151-255,p269-309, 疾患別栄養管理法の習得を目的とし て、生化学・生理学・分子生物学を基 盤にして病態を理解できるように工夫 しながら詳説した。
「人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち」建帛社	平成27年3月	病理学Ⅱ履修者 2、3、4年生	分担執筆 p35-63.肥満・ メタボリックシンドローム・糖尿病・ 脂質異常症・高尿酸血症 について、その成因・ 病態・診断・治療を わかりやすく概説した。
認定 NST ガイドブック 2014 改訂第4版 メディカルビュー社	平成 26 年7月	臨床栄養学特論履修者 大学院生	分担執筆 p133-140. 中心静脈栄養法の適応、中心静脈カ テーテルの挿入法、中心静脈栄養法 に使用する輸液の種類と特徴を概説 した。さらに、その管理とモニタリン グのコツについて述べた。さらに理解 を深めるために中心静脈栄養法で治療 した症例の提示を行った。
「人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち I.解剖生理学」 中山書店	平成 28 年6月	解剖生理学履修者 1、2、3、4年生	肝臓、胆嚢、膵臓の解剖と機能 についてわかりやすく概説した。
その他教育活動上特記すべき事項			
●京都大学医学部3回生を対象にして京都大学医学部非常勤講師として以下のタイトルで講義を行った。			
生活習慣病の食事療法と臨床栄養治療	平成 22 年2月～ 平成 29 年 2 月	京都大学医学部3回生	様々な生活習慣病の治療に適した食 事療法を紹介するとともにその理論的 背景について講義した。
栄養補給法と栄養素欠乏・過剰症	平成 22 年2月～ 平成 28 年 2 月	京都大学医学部3回生	経口摂取不良時の栄養補給法として の経腸栄養法、完全静脈栄養法、末 梢静脈栄養法の適応、禁忌について 解説するとともに、ビタミン、微量元素 の欠乏症、過剰症について講義した
●アドミッションセンターからの依頼により高校で以下の模擬授業・進路説明を実施した。			
糖尿病とはどんな病気？ 一欧米人と日本人の違いー	平成 26 年 10 月	大阪府立泉大津高校 2 年生	糖尿病の疾患の成り立ちをわかりやす く説明し、治療法やその慢性合併症 について講義した。
食で人を幸せに	平成 28 年2月	大阪府立高石高校2年生	栄養関係の仕事について幅広く説明 した。
●日本病態栄養学会からの依頼を受け、管理栄養士を含む医療従事者を対象にした栄養管理に関する講習会において講師を務め、指導を行った。			
日本病態栄養学会教育セミナー（学術集会） 講演テーマ:更新者用「ケーススタディ1」＜がん＞ 平成29年1月12日 於:国立京都国際会館			
日本病態栄養学会 NST セミナー 京都会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」 平成 29 年 1 月 12 日 於:国立京都国際会館。			
日本病態栄養学会 NST セミナー 京都会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成 24 年 6 月 23 日 於:国立京都国際会館。			
日本病態栄養学会教育セミナー 近畿地区 講演テーマ:受験者用「代謝疾患・その他の疾患」、「病態栄養の基礎知識」。 平成 24 年 6 月 24 日 於:国立京都国際会館。			

日本病態栄養学会教育セミナー 近畿地区 講演テーマ:受験者用「代謝疾患・その他の疾患」、「症例レポートの書き方と病態把握」。 平成 25 年 1 月 11 日 於:国立京都国際会館。
日本病態栄養学会 NST セミナー 東京会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成25年6月1日 於:都市センターホテル。
日本病態栄養学会 NST セミナー 沖縄会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成25年6月15日 於:沖縄産業支援センター
日本病態栄養学会教育セミナー 沖縄地区 講演テーマ:受験者用「消化器疾患・呼吸器疾患」、「代謝疾患・その他の疾患」 平成25年6月16日 於:沖縄産業支援センター
日本病態栄養学会 NST セミナー 京都会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成25年 7 月 13 日 於:国立京都国際会館。
日本病態栄養学会教育セミナー 近畿地区 講演テーマ:受験者用「病態栄養の基礎知識」、「循環器疾患・腎疾患」 平成25年 7 月 14 日 於:国立京都国際会館
日本病態栄養学会 NST セミナー 大阪会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成26年1月10日 於:大阪国際会議場。
日本病態栄養学会 NST 委員会主催 NST メディカルスタッフセッション(初級編)「栄養療法の合併症と対策」 講演テーマ:「中心静脈栄養の合併症と対策」。 平成26年1月11日 於:大阪国際会議場。
日本病態栄養学会教育セミナー 近畿地区 講演テーマ:受験者用「消化器疾患・呼吸器疾患」。 平成 26 年 1 月 10 日 於:大阪国際会議場。
日本病態栄養学会 NST セミナー 京都会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成 26 年 7 月 26 日 於:国立京都国際会館。
日本病態栄養学会教育セミナー 近畿地区 講演テーマ:更新者用「ケーススタディ1」＜褥瘡摂食嚥下＞ 平成26年 7 月 27 日 於:国立京都国際会館
日本病態栄養学会 NST セミナー 京都会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成 27 年 1 月 9 日 於:国立京都国際会館。
日本病態栄養学会 平成 26 年度糖尿病透析予防指導セミナー 講演テーマ:糖尿病腎症の病態・診断と治療「糖尿病透析予防のための療養指導」 平成 27 年 1 月 9 日 於:国立京都国際会館。
日本病態栄養学会 NST セミナー 福岡会場(厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成 27 年 6 月 27 日 於:中村学園大学。
日本病態栄養学会教育セミナー 大阪会場 講演テーマ:更新者用「ケーススタディ1」＜肝疾患＞ 平成27年 7 月 12 日 於:中央電気倶楽部
日本病態栄養学会 平成 27 年度 教育セミナー 講演テーマ:受験者用「代謝疾患・その他の疾患」。 平成 28 年 1 月 8 日 於:パシフィコ横浜。
日本病態栄養学会 平成27年度 NST セミナー (厚生労働省に認められた研修会) 講演テーマ:「末梢静脈栄養、完全静脈栄養、在宅栄養療法」、実技指導:「栄養サポートチームのための実技講習会」。 平成 28 年 1 月 8 日 於:パシフィコ横浜。
日本病態栄養学会 NST 委員会主催 NST メディカルスタッフセッション(初級編)「静脈栄養の基本」 講演テーマ:「中心静脈栄養」。 平成28年1月9日 於:パシフィコ横浜。
●日本糖尿病協会から依頼を受け、様々な職種が、医療機関、地域を超えて意見交換を実施する際のファシリテーターを勤めた。
公益社団法人 日本糖尿病協会主催 第3回日本糖尿病療養指導学術集会スモールグループディスカッション ファシリテーター平成27年7月25日 於:国立京都国際会館
公益社団法人 日本糖尿病協会主催 第4回日本糖尿病療養指導学術集会スモールグループディスカッション ファシリテーター平成28年7月24日 於:国立京都国際会館

研究活動				
著書・CD・論文・学会発表 ・演奏会等の名称	単共 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名 前、曲名、担当頁、概要など
著書・訳書・CD 等				
消化器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患	共	平成 25 年 9 月	臨床病態栄養学 文光堂	分担執筆 p151-255,p269-309, 疾患別栄養管理法の習得を目的とし て、生化学・生理学・分子生物学を基盤 にして病態を理解できるように工夫しな がら詳説した。
栄養障害と代謝疾患	共	平成27年3月	「人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち」建帛社	分担執筆 p35-63.肥満・メタボリックシン ドローーム・糖尿病・脂質異常症・高尿酸 血症について、その成因・病態・診断・ 治療をわかりやすく概説した。
中心静脈栄養法	共	平成 26 年7月	認定 NST ガイドブック 2014 改訂第4版 メディカルビュー社	分担執筆 p133-140.中心静脈栄養法の 適応、中心静脈カテーテルの挿入法、 中心静脈栄養法に使用する輸液の種類 と特徴を概説した。さらに、その管理とモ ニタリングのコツについて述べた。さらに 理解を深めるために中心静脈栄養法で 治療した症例の提示を行った。
各論 脂質異常症	共	平成27年1月	実践！ケースに学ぶ 栄養管理・食事指導ガイド 南 山堂	分担執筆 p28-32 共著者 細川雅也、 和田啓子 脂質異常症の病態、脂質異 常症に合併する動脈硬化性疾患の評価 の方法を解説した。さらに本疾患に対す る実践的な栄養管理・食事指導につい て詳述した。
糖質・脂質・たんぱく質の作用と代謝	共	平成27年1月	実践！ケースに学ぶ 栄養管理・食事指導ガイド 南 山堂	分担執筆 p2-7 田中仁、細川雅也、津田 謹輔いわゆる三大栄養素について、構 造と作用、消化吸収、エネルギー代謝に おける役割、エネルギー以外の代謝を 概説した。
食事療法の種類と特徴	共	平成 26 年3月	ヴィジュアル糖尿病臨床のす べて 糖尿病患者の食事と運 動―考え方と進め方 中山書 店	分担執筆 p30-39、共著者 細川雅也、 津田謹輔。糖尿病食事療法の幾多の歴 史の変遷を踏まえて、カーボカウント・糖 質制限食の問題点・最新の食品交換表 について概説した。
蛋白質代謝	共	平成27年5月	糖尿病学 西村書店	分担執筆 p14-28、共著者100名以上。 糖尿病状態におけるタンパク質代謝の 変化、インスリンをはじめとするホルモン によるタンパク質代謝の制御について概 説した。
「酵素:作用機構、反応速度論、活性の調節」	共	平成 28 年 11 月	「ハーバー・生化学」(原書 30 版)丸善出版	分担翻訳(執筆者 33 名)「酵素:作用機 構、反応速度論、活性の調節」p 67-112。生化学・分子生物学の基本原 理に包含されている酵素について、翻 訳した
学術論文				
Lack of Goal Attainment Regarding the LDL Cholesterol Level in the Management of Type 2 Diabetes Mellitus	共	平成 25 年 11 月	Internal Medicine	Hosokawa M, Hamasaki A, Nagashima K, Harashima S, Toyoda K, Fujita Y, Harada N, Nakahigashi Y, Fujimoto S, Inagaki N 52(21):2409-15. 日本人2型糖尿病患者において脂質管 理目標達成率ならびに「未達成症例に おける未達成理由」を調査した。達成率 は61%であった。また、二次予防群に おいては、「内服薬剤数の多さ」が良好 な服薬アドヒランスと目標達成への障壁 となっている可能性が示唆された。

Circulating TNF Receptor 2 is Closely Associated with the Kidney Function in Non-Diabetic Japanese Subjects	共	平成 26 年4月	J Atheroscler Thromb.	Kurashina T, Nagasaka S, Watanabe N, Yabe D, Sugi N, Nin K, Hosokawa M, Nomura Y, Fukushima M, Nakai Y, Nishimura F, Taniguchi A.. 21(7):730-8 日本人の非糖尿病患者において、血中 TNF 受容体2は腎機能と密接に相関することを示した。
半固化剤添加が経腸栄養剤摂取後の血糖値に及ぼす影響の基礎的検討	共	平成26年6月	日本病態栄養学会誌	田中 仁、細川雅也、入谷信子、稲垣暢也、清野 裕 17 巻 213-220 半固化剤の一種であるキサタンガムを経腸栄養剤に添加することにより、ラット小腸におけるグルコース吸収を抑制され、食後血糖が抑制される可能性があることを示した。
DEPTOR-related mTOR suppression is involved in metformin's anti-cancer action in human liver cancer cells.	共	平成 27 年 5 月	Biochem Biophys Res Commun.	Obara A, Fujita Y, Abudukadier A, Fukushima T, Oguri Y, Ogura M, Harashima S, Hosokawa M, Inagaki N.460(4):1047-52. 経口血糖降下薬の一種であるメトホルミンに抗癌作用があることが、近年報告されている。その作用機序として、DEPTOR が関与して mTOR を抑制する経路が存在することを示した。
Tetrahydrobiopterin has a glucose-lowering effect by suppressing hepatic gluconeogenesis in an endothelial nitric oxide synthase-dependent manner in diabetic mice.	共	平成 25 年 9 月	Diabetes	Abudukadier A, Fujita Y, Obara A, Ohashi A, Fukushima T, Sato Y, Ogura M, Nakamura Y, Fujimoto S, Hosokawa M, Hasegawa H, Inagaki N.62:3033-43。 テトラヒドロbiopterin(BH4)が肝臓糖新生を血管内皮型一酸化窒素合成酵素依存性に抑制することを示した。BH4 はインスリン抵抗性改善薬と同様に糖尿病モデルマウスの血糖を改善することも示した。したがって、BH4 には2型糖尿病の治療薬になりうる潜在的な可能性があることが示された。
Okara ameliorates glucose tolerance in GK rats.	共	平成 28 年 5 月	J Clin Biochem Nutr	Hosokawa M, Katsukawa M, Tanaka H, Fukuda H, Okuno S, Tsuda K, Iritani N.58(3):216-22. 「おから」を糖尿病モデルラットである GK ラットに摂食させたところ、対照群と比較して、脂肪細胞における PPARgamma およびアディポネクチンの遺伝子発現の増加が増加した、また、耐糖能の改善も認められた。したがっておから摂食が糖尿病食事療法に役立つ可能性が示された。
学会発表				
テトラヒドロbiopterinは eNOS 依存性に肝臓糖新生を抑制することにより血糖低下作用をもたらす	共	平成 24 年5月	第 55 回日本糖尿病学会年次学術集会	藤田 義人, Abulizi Abdulkadir, 小原章央, 福島 徹, 佐藤 雄一, 小倉 雅仁, 中村 靖彦, 細川 雅也, 稲垣 暢也
外来通院中の「2 型糖尿病に脂質異常症を合併した患者」におけるスタチンの腎機能に及ぼす影響の検討	共	平成 24 年5月	第 55 回日本糖尿病学会年次学術集会	細川 雅也, 濱崎 暁洋, 中東 有子, 藤田 義人, 原田 範雄, 山根 俊介, 豊田 健太郎, 長嶋 一昭, 原島 伸一, 藤本 新平, 稲垣 暢也
「脂質管理目標未達成の 2 型糖尿病患者」における未達成の背景に関する調査	共	平成 24 年11月	第 27 回日本糖尿病合併症学会	細川 雅也, 濱崎 暁洋, 中東 有子, 藤田 義人, 原田 範雄, 豊田 健太郎, 長嶋 一昭, 原島 伸一, 藤本 新平, 稲垣 暢也

Lipopolysaccharide inhibits gluconeogenesis through nonparenchymal-cell-mediated pathway in rat liver.	共	平成 24 年11月	4th Asian Association for the Study of Diabetes Scientific Meeting	Masaya Hosokawa, Hiroshi Tanaka, Sayaka Nakanishi, Ataru Taniguchi
摂食・嚥下障害へのチームアプローチ	共	平成 25 年 1 月	第 16 回日本病態栄養学会年次学術集会	細川 雅也, 稲垣 暢也
半固形化栄養剤の血糖値および小腸蠕動運動に及ぼす影響の検討	共	平成 25 年5月	第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会	田中 仁, 細川 雅也
eNOS 補酵素テトラヒドロビオプテリンが糖代謝制御機構に与える影響についての検討	共	平成 25 年5月	第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会	藤田 義人, Abulizi Abdulkadir, 小原章央, 福島 徹, 佐藤 雄一, 中村 靖彦, 山根 俊介, 小倉 雅仁, 細川 雅也, 稲垣 暢也
メトホルミンはプロテアソーム活性を制御しヒト肝細胞癌の増殖を抑制する	共	平成 25 年5月	第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会	小原 章, 藤田 義人, Abudukadir Abulizi, 福島 徹, 細川 雅也, 稲垣 暢也
半固形化栄養剤の血糖値に及ぼす影響の検討	共	平成 25 年5月	第 67 回日本栄養・食糧学会大会	田中 仁, 香野 美佳, 細川 雅也
1 型糖尿病ラットにおける粉末食品添加による糖、脂質代謝への影響	共	平成 25 年5月	第 67 回日本栄養・食糧学会大会	勝川 路子, 福田 ひとみ, 香野 美佳, 細川 雅也, 入谷 信子
「2 型糖尿病に脂質異常症を合併した患者」においてスタチン投与が腎機能に及ぼす影響の検討	共	平成 25 年11月	第 28 回日本糖尿病合併症学会	細川 雅也, 濱崎 暁洋, 長嶋 一昭, 原島 伸一, 豊田 健太郎, 藤田 義人, 原田 範雄, 中東 有子, 藤本 新平, 稲垣 暢也
敗血症における低血糖と LPS の相関について	共	平成 26 年1月	第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会	田中 仁, 谷口 中, 中野 忠雄, 津田 謹輔, 細川 雅也
健康若年者における腹囲の日内変動の検討	共	平成 26 年1月	第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会	細川 雅也, 田中 仁, 中野 忠雄, 津田 謹輔
eNOS 補酵素テトラヒドロビオプテリンが糖およびエネルギー代謝に与える影響についての検討	共	平成 27年1月	第 18回日本病態栄養学会年次学術集会	小栗 靖生, 藤田 義人, Abdulkadir Abulizi, 小原 章央, 古谷 太志, 大橋 晶子, 福島 徹, 長谷川 宏幸, 細川 雅也, 稲垣 暢也
Lipopolysaccharide のラット肝糖新生に及ぼす影響の検討 免疫担当細胞の役割	共	平成 27年1月	第 18回日本病態栄養学会年次学術集会	田中 仁, 中 翔一, 福島 徹, 谷口 中, 津田 謹輔, 細川 雅也
大阪府産野菜による α -グルコシダーゼ活性阻害作用の検討	共	平成 27年1月	第 18回日本病態栄養学会年次学術集会	細川 雅也, 田中 仁, 中 翔一, 津田 謹輔
甲状腺機能亢進症増悪に伴う耐糖能悪化が詳細に観察しえたバセドウ病合併糖尿病の 1 例	共	平成 25 年11月	第50回日本糖尿病学会近畿地方会	與座 里奈, 浜崎 暁洋, 細川 雅也, 奥町 彰礼, 佐藤 雄一, 稲垣 暢也
LPS がラット肝糖新生に及ぼす影響	共	平成 27年 5 月	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	田中 仁, 福島 徹, 津田 謹輔, 細川 雅也
メトホルミンはヒト肝癌細胞において AMPK-DEPTOR-mTOR シグナルを介して抗癌作用を発揮する	共	平成 27年 5 月	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	小原 章央, 藤田 義人, Abudukadir Abulizi, 福島 徹, 小栗 靖生, 小倉 雅仁, 原島 伸一, 細川 雅也, 稲垣 暢也
テトラヒドロビオプテリンによる糖・脂質およびエネルギー代謝制御機構の解明	共	平成 27年 5 月	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	小栗 靖生, 藤田 義人, Abdulkadir Abulizi, 小原 章央, 大橋 晶子, 古谷 太志, 福島 徹, 長谷川宏幸, 細川雅也, 稲垣暢也
GK ラットにおける「おから」摂食による耐糖能改善の機序の解明	共	平成 28 年1月	第 19 回日本病態栄養学会年次学術集会	細川 雅也, 田中 仁, 勝川 路子, 福田 ひとみ, 津田 謹輔, 入谷 信子
糖尿病モデルラットにおける半固形化栄養剤が及ぼす影響の検討	共	平成 28 年1月	第 19 回日本病態栄養学会年次学術集会	田中 仁, 中 翔一, 津田 謹輔, 細川 雅也
健常者における腹囲の日内変動の検討	共	平成 28 年 5 月	70 回日本栄養・食糧学会大会	細川 雅也, 田中 仁, 津田 謹輔,

テトラヒドロビオプテリンによる糖・脂質およびエネルギー代謝制御機構の解明	共	平成 28 年 5 月	第 59 回日本糖尿病学会年次 学術集会	藤田 義人, 小栗 靖生, Abulizi Abdukadier, 小原 章央, 大橋 晶子, 古谷 太志, 松尾 奈緒美, 福島 徹, 長谷川 宏幸, 細川 雅也, 稲垣 暢也
eNOS 補酵素テトラヒドロビオプテリンの糖尿病腎症 発症機序への関与の解明	共	平成 28 年 5 月	第 59 回日本糖尿病学会年次 学術集会	小栗 靖生, 藤田 義人, 古谷 太志, 松尾 奈緒美, 屋山 勝俊, 小原 章央, Abdukadier Abulizi, 大橋 晶子, 長谷 川 宏幸, 鶴山 竜昭, 細川 雅也, 稲 垣 暢也
「おから」摂食は GK ラットの耐糖能を改善させる	共	平成 28 年 5 月	第 59 回日本糖尿病学会年次 学術集会	細川 雅也, 勝川 路子, 田中 仁, 福 田 ひとみ, 津田 謹輔, 入谷 信子
経腸栄養剤摂取時においてキサンタンガム(XG)添 加がもたらす「セカンドミール効果」の検討	共	平成 29 年 1 月	第20回日本病態栄養学会年 次学術集会	細川 雅也, 田中 仁, 津田 謹輔
その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)				
糖尿病うそ！？ほんと！？	共	平成 25 年3月	月刊 糖尿病ライフさかえ	p54-55. 患者さんから寄せられた糖尿 病に関する素朴な疑問にわかりやすく 回答した。
糖尿病患者をみる 食事療法の観点から	共	平成26年5月	Mebio2014 年 5 月別冊 新規糖 尿病治療薬 SGLT2 阻害薬の展 望 メディカルビュー社	分担執筆 p70-73. 共著者 細川雅也、 津田謹輔 糖尿病患者の治療では 血糖コントロール改善および全身の代 謝状態の改善を目標とした食事療法 が基本であることを説明し、SGLT2 阻 害薬内服際には、脱水傾向に傾かない よう十分な水分を摂取させる必要性 があることを述べた。
エネルギーや三大栄養素以外で、 考慮すべき栄養素はどのようなもの ですか？	共	平成26年4月	臨床栄養別冊 栄養指導・管理 のためのスキルアップシリーズ vol.1 糖尿病の最新食事療法の なぜに答える 基礎編 医歯薬 出版	分担執筆 p112-115 共著者 細川雅 也、津田謹輔 エネルギーや三大栄 養素以外で、考慮すべき栄養素に は、食物繊維、ビタミン、ミネラルがあ ることを説明し、それぞれの欠乏症の 症状、過剰症などを述べた。
肥満症における栄養バランスと 高血圧	共	平成27年1月	月刊誌「血圧」 特集 「肥満と高 血圧」	分担執筆 p37-41. 共著者 細川雅 也、田中仁、津田謹輔 肥満症の食 事療法、高血圧の食事療法、動脈硬 化性疾患予防のための食事療法、に ついて解説した。
総論 脂肪酸とは	共	平成27年3月	月刊「ホルモンと臨床」 特集/ 「脂肪酸」に強くなる 医学の世 界社	分担執筆 p507-512 共著者 田中 仁、細川雅也、津田謹輔 脂肪酸の 種類と構造、消化吸収と代謝、機能と 作用について解説した。さらに脂肪酸 の摂取基準と疾病との関係について 述べた。
栄養・食糧学用語辞典(第2版)	共	平成27年 5 月	日本栄養・食糧学会編建帛社	分担執筆(執筆者 300 名以上)栄養 学・食糧学の進歩に対応して、第 1 版 が改訂された。
研究助成金の受給状況				
科研費の採択				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	

その他の外部資金による活動				
研究タイトル		助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別
L-アルギニンによる肝臓ブドウ糖新生抑制機序の解明		平成 24 年度学術研究振興資金、日本私立学校振興・共済事業団		研究代表者
		支給額		支給年度
		700,000 円		平成 24 年度
研究タイトル		助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別
糖尿病モデルラットにおける「おから摂食」による耐糖能改善の機序の解明		公益財団法人不二たん白質研究振興財団		研究代表者
		支給額		支給年度
		995,000 円		平成 25 年度
その他研究活動上特記すべき事項		年月	概要	
学内委員等				
就任期間		機関名・委員名・役職名		
平成 24 年 4 月から現在まで		衛生委員会委員		
平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月		研究年報編集委員(人間科学)		
平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月		食物栄養学科新課程(健康実践栄養士課程)設置実行委員会委員		
平成 25 年 4 月から現在まで		ICT センター運営委員会委員		
社会活動				
学会役員				
就任期間		学会役員名		
平成 23 年 4 月から現在まで		日本糖尿病学会学術評議員		
平成 23 年 4 月から現在まで		日本病態栄養学会誌編集委員会委員		
平成 23 年 4 月から平成 25 年 3 月		日本栄養・食糧学会誌編集委員会委員		
平成 25 年 4 月から現在まで		日本栄養・食糧学会参与		
平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月		日本病態栄養学会中央セミナー委員会委員		
平成 23 年 4 月から現在まで		日本病態栄養学会学術評議員		
公開講座				
講座名、講演タイトル	単共 の別	年月	場所	概要
成人大学講座、 『高血圧とはどんな病気？』～家庭血圧計を使いこなしましょう～	共	平成25年 4 月	大阪狭山市公民館	巧妙に出来ている血圧の調節機構から説き起こし、高血圧の疫学、合併症をわかりやすく講義した。さらに治療法について食事療法に重点をおいて解説した。
平成 24 年度 帝塚山学院大学 コミュニティカレッジ 講座「楽しく上手に現代を生きる」糖尿病とはどんな病気？	共	平成24 年 12 月	帝塚山学院大学 泉ヶ丘キャンパス	糖尿病の疾患の成り立ちをわかりやすく説明し、治療法やその慢性合併症について講義した。
学外機関委員等				
就任期間		機関名・委員名・役職名		
平成 23 年 4 月から現在まで		京都府糖尿病協会顧問		
平成 23 年 4 月から現在まで		京大みどり会顧問		
平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月		日本糖尿病協会さかえ編集委員会委員		
その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項				

京大みどり会「患者懇話会」 講演テーマ:『糖尿病の食事療法と食物繊維』 平成24年7月13日 於:京都大学医学部附属病院		
京大みどり会「患者懇話会」 講演テーマ:『新しい血糖管理目標』 平成25年7月19日 於:京都大学医学部附属病院		
教員免許状更新講習 講演テーマ:児童・生徒のための健康生活と栄養教育ーメタボな大人に ならないために② 平成26年8月4日 於:帝塚山学院大学		
京大みどり会「患者懇話会」 講演テーマ:「食品交換表第7版の活用 調理・食べ方の工夫」 平成26年7月18日 於:京都大学医学部附属病院		
教員免許状更新講習 講演テーマ:児童・生徒のための健康生活と栄養教育ーメタボな大人に ならないために② 平成27年8月18日 於:帝塚山学院大学		
関西電力医学研究所客員研究員 平成27年6月～現在		
京都大学医学部非常勤講師(糖尿病・内分泌・栄養内科学) 平成22年4月～現在		
日本糖尿病学会専門医, 日本内科学会認定医, 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医 平成22年4月～現在		
教員免許状更新講習 講演テーマ:児童・生徒のための健康生活と栄養教育ーメタボな大人に ならないために② 平成28年8月24日 於:帝塚山学院大学		
京大みどり会「患者懇話会」 講演テーマ:『糖尿病足病変』 平成29年2月16日 於:京都大学医学部附属病院		
帝塚山学院大学泉ヶ丘キャンパス産業医 平成23年4月～現在		
日本糖尿病学会専門医, 日本内科学会認定医, 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医 平成22年4月～現在		
海外での活動		
海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること		
期間	国名	概要